

6月定例会、各常任委員など決定

6月5日 6月定例会で、各常任委員など決まりました。

◆各常任委員会の構成 (○委員長、△副委員長)

・総務委員会 (10名)

○森ひとみ(新流会)、△野村悠介(令和会)、木村健太、中村かずひと、井上文男、八木丈之、ごとうみゆき、水谷千恵子、平松邦江、伊藤裕通

・福祉健康委員会 (9名)

○井田吉彦(令和会)、△京極ふみか(新流会)、東渕正人、渡部晃久、横井忠史、渡辺之良、宇山祥子、柴田雄二、彦坂和子

・経済教育委員会 (9名)

○本山廣次(令和会)、△うすいゆか(令和会)、島津秀典、岡本将嗣、花谷昌章、鶴飼和司、佐々のりな、市川智明、渡辺さとし

・建設水道委員会 (9名)

○尾関さとる(令和会)、△大津乃里予(令和会)、竹山聡、則竹安郎、浅井俊彦、松井哲朗、河村弘保、高橋一、服部修寛



○定例会と臨時会 (市のウェブサイトより)

市議会には定期的に開かれる定例会と、必要に応じて開かれる臨時会があります。

一宮市の定例会は、3月・6月・9月・12月の年4回開催されます。

○常任委員会

市の組織を大きく分けた部門ごとに、常に設置されている委員会です。一宮市議会では4つの常任委員会があり、議員はいずれかの委員会に所属しています。



○議会運営委員会委員も決まりました。

令和会 ○浅井俊彦、本山廣次、井田吉彦、渡部晃久、岡本将嗣

新流会 △鶴飼和司、森ひとみ

公明党一宮市議団 柴田雄二

・オブザーバー

日本共産党一宮市議団 彦坂和子

自由民主党一宮市議会 伊藤裕通、一風会 高橋一、一宮市民の会 服部修寛

第3次一宮市公共交通計画の実施を

一宮市6月議会
一般質問(6/11)
渡辺さとし

質問 「第3次一宮市公共交通計画」は、住民や専門家が話し合って作った大切な約束です。現在、市は「クルマがなくても出かけやすいまち」を目指してどのような施策を行っていますか。

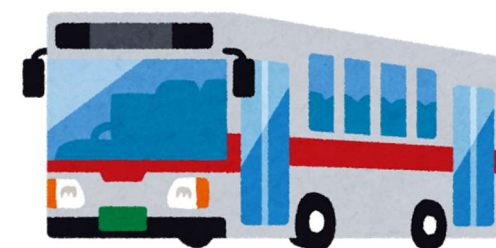
答弁 「質の高い公共交通」「健康的な生活」「みんなで作る交通」の3つを軸に取り組んでいます。i-バスのICカード対応やMaaSサイト「イッテミーヤ」の運用を開始しました。ただ、バス路線の見直しなど、事業者との慎重な協議が必要なものも残っています。

質問 萩原町の住民からは、バス路線をのばして、となりの市の「アピタ稲沢店」まで買い物に行けるようにしてほしいとの提案が出ています。これは計画の方向性と一致していますが、実現の可能性はどうか。

答弁 稲沢市側の道路が狭く安全性が確保できないこと、運行時間や経費が増大することから、現時点での延伸は難しいと考えています。

質問 計画には買い物や通院支援の必要性が明記されています。「財源がない」という理由で止めるのではなく、住民の困りごとを解決するための計画として、より真剣に実現の工夫をすべきです。

答弁 今後、高齢化で移動手段に困るケースが増えることは想定されます。地域協議会が主体となって行う新しい移動手段の導入を、市としても積極的に支援していきます。



「第3次一宮市公共交通計画(2024~2028年度)」は、住民の声を反映し、買い物や通院のための地域交通やバリアフリー化を目指す計画です。特に「市民との協働」を掲げ、地域が主体となる新しい移動手段の導入を目標としています。この目標を達成するため、市は地域からの提案を真摯に受け止め、財政的な支援を通じて具体化を進めるべきだと求めました。

今回、議会での言葉遣いが難しいとの意見もあり、なるべく平易な形でまとめてみました。ご意見などお寄せください。実際の内容は一宮市議会録画映像(<https://qr.paps.jp/KVngt>)からご覧ください。

(今一般質問の掲載は6/18以降になると思われます。)



予防医療の拡充を

質問 特定健康診査に聴力検査を含められないでし
ょうか。難聴は認知症リスクを高めますが、補聴器で対
策も可能です。金沢市のように希望者が少額で受けられ
る仕組みを導入すべきです。

答弁 現在、聴力検査には国の指針がないため、市の単独
事業としての実施予定はありません。ただし、国の検討状況
や他自治体の動向を注視し、必要な知見を集めて研究してま
いります。



質問 歯周病検診についても、岡崎市のように希望者
が無料で受けられる仕組みの導入を求めます。

答弁 検診は重要ですが、現在の受診率は約 5%で
推移しています。対象拡大よりも、まずは現在ある検
診の重要性を啓発し、1 人でも多くの方に受診してい
ただくことが喫緊の課題です。

質問 難聴や歯周病の早期発見は、本人の健康寿命を
延ばすだけでなく、市の将来的な医療・介護費用の抑制
にもつながります。予防医療を充実させるため、まずは
希望者向けのモデル事業から検討を始められませんか。

答弁 歯周病と全身疾患の関連性は強く認識してお
り、口腔機能検査などの取り組みも行っています。ご提案の聴力検査を含め、市独自の
施策拡充については、他自治体の先行事例を参考に今後も研究を続けてまいります。

市は補聴器購入補助を開始しましたが、さらなる補助額の増加や対象拡充
を求めました。また、聞こえづらさに早期に気づく取り組みとして、金沢市
のような希望者向けの聴力検査導入を求めます。さらに、糖尿病等の全身疾
患と関連が深い歯周病の早期発見も重要です。これらは個人の健康維持だけ
でなく、市の医療・介護費用の抑制にもつながります。市独自の実施検討と、
県・国への制度拡充の働きかけを求めます。

中学校制服リサイクルで環境負荷軽減と子育て支援を

質問 新制服導入から 4 年が経過し、不要になった制服が出ています。保護者
の負担軽減やゴミの削減のため、市が主導してリサイクル・リユースの仕組みを
作りませんか。

答弁 現在、学校での制服リユースは PTA 等の主導で一部行われていますが、
管理負担や保管場所の問題に加え、需要が少ないため実施校は限られています。
市全体での回収・活用については、教職員の負担やスペースの確保など課題も多
いため、総合的に研究してまいります。

質問 堺市などでは、民間事業者が寄付された制
服を補修・販売する仕組みがあり、市は情報発信の
役割を担うことでコストを抑えて支援してい
ます。一宮市でも民間との連携や「いちみんク
ローゼット」のノウハウ活用など、工夫次第で
可能ではないですか。

答弁 堺市の事例のように、民間活力を利用
して教職員の負担を軽減する仕組みは参考に
なります。保護者の利便性や場所の確保といっ
た課題を整理しつつ、子育て支援と環境保護の
観点から、実現可能な方法を総合的に研究して
まいります。



制服のリサイクル・リユースは、子育
て世帯の経済的負担軽減や廃棄物削減、
資源循環の観点から非常に有効な取り
組みです。全国の自治体では、民間や NPO
と連携した回収・販売や、ひとり親家庭
への支援プロジェクトなど多様な事例
が存在します。市には、現行の課題を整
理しつつ、民間活力の活用などを含めた
具体的な仕組みづくりを研究し、環境負
荷軽減と子育て支援を両立させる施策
の推進を求めました。

政治革新の道しるべ、
真実つたえ希望はこぶ

しん
ぶん 赤旗

日刊●月 3497 円
日曜版●月 990 円